



青き楓

島高だより
令和元年 11 月号
(通巻第 164 号)
長崎県立島原高等学校
編集：研修広報部

校長室から

楓に学ぶ

校長 渡邊 孝経

先日、文化交流に関する情報交換のため、「愛知県幸田町」の教育委員会関係者、幸田高校の羽佐田透一校長、幸田町立中央小学校の内藤節夫校長をはじめとする学校関係者が来校された。実は、幸田町は島原藩松平家のルーツであり、新たな友好交流の歴史をスタートさせるために、島原市は平成29年10月11日に、インターネット回線を用いて、両市町のそれぞれの会場で姉妹都市提携の調印式を行っている。こうした交流は大変意義深いものであり、両市町が共に発展できればと、心より願う。

「井の中の蛙 大海を知らず」とならないよう、こういう交わりの中で、それぞれの発展のため、互いの良さを学び合いたいものだ。しかし「井の中の蛙 大海を知らず」は「されど空の深さ(青さ)を知る」とも続く。大海を知らない反面、そこに居続けることでこそ、分かる良さもあるという意味であろう。私自身も地元のことを尋ねられて、とっさに答えられない時がある。それは島原市に誇りを持っていないということにつながるのでは、と恥ずかしくもある。やはり、まずは自分たちの市、県の良さや歴史をもっと学ぶべきだとあらためて感じた。生徒諸君も地元島原について、是非学んで欲しい。

打ち合わせ後の雑談の中で、内藤校長より「何で生徒たちのことを『楓』と呼ぶのですか」と尋ねられ、その場では「校章が『楓』ですからね」と答えましたが、改めて述べるならば、「『楓』は校章に見られるように本校のシンボルであり、『青き楓』とすることにより島高生の若々しさと輝かしい可能性を表現している」ということである。

さて、本校玄関前の小庭園の楓も色づいているが、今年は紅葉になるのが遅いようである。藤野紘の著書「日本人の美しい和のふるまい」によると、古代の日本人は、紅葉を生命力が極致にまで達した状態だととらえた。楓のほか、檜、クヌギ、黄櫨などの落葉樹は紅葉が終われば、枯れ葉となって散り行くだけ。何ともはかないものだが、昔の人はそこにも生命力のあらわれを見たそうである。また、花ではなく、紅葉を鑑賞するために遠出するというのは、諸外国では見られない風習で、そこに自然の美をどこまでも追求しようとする日本人らしい和のところがあらわれている、とも書いてある。ちなみに、藤野紘によると、もみじとは、古語の「もみず」が語源。緑の草木が寒気により赤や黄色、褐色などに変わっていくことを「もみず」といった。紅葉はそれに漢字を当てたもので、中でも楓の人気は高く、広く親しまれている。江戸時代の植木職人たちが盛んに品種改良を進めたことが功を奏し、現代人は100種類以上の楓を見ることができるとのことである。

本校の楓も何種類もある。写真の楓は以前も紹介したが、本校元校長の北浦剛先生が「落ちない楓」と命名された。冬枯れの季節になっても、その葉は落ちず木の枝にしっかり残っていることからの命名である。「受験に挑む島高生にとって、縁起を担ぐ意味でも貴重なものだ」とおっしゃっていた。そして、「目先の受験だけでなく、遠い将来にわたってたくましく生きることへの暗示かもしれない」ともおっしゃっていた。

3年生は追い込みの時期である。普通の楓は紅葉を過ぎたら散りゆき、落ちていくだけだが、諸君はこの島高の「落ちない楓」のように最後まで往生際悪く、受験に向き合い取り組んで行って欲しい。



島高青楓塾

教務部

本校の卒業生で、社会の第一線で活躍されている先輩方を講師に招く講演会「島高青楓塾」が11月12日(火)に行われました。

◇講師紹介

西村 明 氏 (本校第44回生)
東京大学文学部准教授

◇演題 「外から見た島原と島高—未来を拓く地元学」

今年度は、学術分野の第一線で活躍されている44回生の西村様をお招きし、講演をいただきました。そのお話の中で、外から見た島原(半島)の魅力を、「島原はレジリエンスの宝庫」という言葉で表現されました。レジリエンスという聞きなれない言葉ですが、生徒たちにもわかりやすく説明していただきました。

島原(半島)は、過去に何回もの自然災害やあまたの不幸に見舞われましたが、その都度困難を克服して立ち上がるレジリエンス(強靱性・反発力)をもっているというお話は、これから社会の荒波に船出する生徒たちに勇気と希望を与えてくれたものと思います。

質疑応答では、多くの生徒達が積極的に質問しました。今後の人生に大変参考になったものと思います。

◇生徒感想より

- 自分たちが住んでいる地元が実はすごい所なんだと気づきました(1年女子)
- 誰もがポテンシャルを持っていて可能性を發揮できるというお話から、自分もあきらめずできる限りの努力をしようという思いが強くなりました(2年女子)
- 自分はまだ未熟だが、今直面している困難を乗り越えることでレジリエンスを身につけることができれば、今後の人生に役に立つと思いました(3年男子)



島P連秋季研修会

教務部

11月23日(土)にホテル南風楼にて、島原地区高等学校・特別支援学校PTA連合会秋季研修会が行われました。今年度は「新しい時代(令和)を拓く子どもたちのために」という大会テーマのもと、県教育センターの松尾賢志先生による『「SNSノート・ながさき」を活用した情報モラル教育』という演題での基調講演を行いました。講演のあとは、意見交換が行われ、参加者からは「子どものスマホが鳴りっぱなし」「食事中もゲームをして困る」など普段の生活での悩みが多くあがりました。松尾先生からのアドバイスは「保護者が遠慮せずに子どもに働きかけて、親も子どももSNSに関するリスクを学ぶことが大切」ということでした。閉会後の情報交換会も大いに盛り上がり、今年も充実した研修会となりました。

12月の主な行事予定

2日(月)	3年三者面談(2~20日)	24日(火)	2学期終業式・大掃除
3日(火)	2年修学旅行(~6日)	25日(水)	冬季補習(3年~26日)
7日(土)	土曜講座(1・3年)		(1・2年~28日)
9日(月)	歳末助け合い募金(~13日 街頭)		※早朝補習なし
	歳末助け合い募金(~10日 街頭)	27日(金)	3年年末センタープレテスト(~28日)
	※ウィルビー、エレナ(北門)		※3年生:1/4(土)・5(日)年始プレテスト
14日(土)	県下一斉実力テスト(1・2年)		1/6(月)・7(火)冬季補習
	3年センター試験プレテスト(~15日)		1・2年生:1/6(月)・7(火)冬季補習
21日(土)	土曜講座(全学年)		1月8日(水)3学期始業式

◆主な部活動実績等◆

弓道部

令和元年度長崎県高等学校新人体育大会
 男子団体 2位
 女子団体 **優勝**

ソフトテニス部

令和元年度長崎県高等学校新人ソフトテニス競技
 男子団体 第3位
 男子個人 第3位 藤田・小田ペア
 長崎県高等学校ソフトテニス競技団体選抜大会
 男子の部 第2位

レスリング部

第14回全日本オープンレスリング選手権大会
 高校生の部 第2位 吉武まひろ
 令和元年度長崎県高等学校新人大会
 団体戦 第2位
 個人戦 92kg級 **優勝** 稲本 喬弘
 80kg級 2位 菅 仁亮
 71kg級 **優勝** 濱崎 湧太
 65kg級 **優勝** 森崎悠太郎
 60kg級 **優勝** 落水 健太
 55kg級 2位 内田 真文
 女子個人戦
 68kg級 **優勝** 古賀美颯野
 47kg級 **優勝** 甲斐 愛燦

水泳

令和元年度長崎県高等学校新人体育大会
 女子 200m バタフライ **第1位** 中川 咲希
 女子 100m バタフライ 第2位 中川 咲希

放送部

令和元年度長崎県高等学校総合文化祭
 第41回九州放送コンテスト県央大会
 朗読部門 優秀賞 小川 真由
 アナウンス部門 優秀賞 島崎 希生

令和元年度長崎県高等学校総合文化祭
 第41回九州放送コンテスト長崎県大会
 朗読部門 優秀賞 小川 真由
 テレビ番組部門 優秀賞

美術部

令和元年度長崎県高等学校総合文化祭
 美術部門
 第50回記念(彫刻・工芸・現代アート部門)
 特別賞 佐藤 美鈴
 酒井 菜摘
 笹田 晃成

合唱部

第74回九州合唱コンクール長崎県予選
金賞
 第57回長崎県高等学校音楽コンクール
 声楽部門
金賞 柴田 龍平
銀賞 入江 美夢
 前田 梨緒
銅賞 松田 秀麻
 松本 一輝
 ピアノA部門
金賞 林田 響

第74回九州合唱コンクール
銅賞



乳幼児ふれあい体験☆

1年生家庭科の「乳幼児ふれあい体験」が全クラス無事に終了しました。全6回の活動に、152名の乳幼児親子が参加してくださいました。この体験を通して、実際に赤ちゃんを抱っこしたり、出産や子育ての話をお母さんたちから直接聞いたりすることで、多くのことを学ぶことができました。 家庭科主任 松尾 恭子

生徒感想より

- リアルなエコー写真を見せてもらい、妊娠の経過がわかって感動した。お母さんたちの話を聞いているうちに、子どもが生まれるということはとても大変なことで、奇跡のようなものであると改めて感じた。また、大切に愛情を持って育てられていることが伝わってきた。心を込めて一生懸命に接したら、赤ちゃんも笑顔を見せてくれたので、嬉しかった。今回の体験を通して、自分がいかに多くの人に支えられてここまで大きくなったのか、考えさせられた。今後、少しずつでも恩返しができるように頑張っていきたい。(男子)
- まず感じたことは、お母さんの話や様子を見て、自分もこんなに小さかった時代があって、自分もこんな風にたくさんの人からかわいがってもらって育ったのかということです。おかげさまで高校生となり、ここまで大きくなりました。今回の体験は、本当の育児からすると、ごくわずかなことだと思います。でも、抱っこの仕方やおむつの替え方、ミルクの飲ませ方など、いろいろな経験ができたので、この経験を将来父親になった時に役立てたいと思います。(男子)
- ふれあい体験で親の大変さ、子どもに対する愛情の深さを知ることができました。自分も両親から愛情を持って育てられたと感じました。親の愛情を無駄にせず、命を大切に生きていきたいと改めて思いました。同じように他人のことも大切にできるようになりたいです。(女子)
- まだ首がすわっていない赤ちゃんをだっこするのは緊張しましたが、気持ちよさそうに寝てくれて、ほんわかした気持ちになりました。赤ちゃんには、人を笑顔にする力と幸せにする力があると思いました。私は、将来子どもに関する仕事に就きたいと思っています。だから、このふれあい体験は夢に近づく第一歩となりました。育ててくれた両親に感謝しながら「ありがとう」という言葉を大切にしたいです。(女子)

